(日刊)(明治四十一年七月十日第三種郵便物認可) 明治四十一年七月廿九日 京城新聞 (水曜日) 第廿一號 (一)

京城新聞

寄書

韓人教育に就きて

序序散人

京城新聞記者足下

貴紙第十九號(七月廿六日)の韓人教育に就きての社説は過日曾禰副統監より特別學校教監に與へたる訓示を引用して韓人の額に汗してパンを得るの貴きを知らすべしとは何人と雖も首肯するところなるべし將來韓人を導くの一事は實業にあり農商工其の孰れを問ふを要せず須らく簡易なるものを撰みて之を授け即ち其已製品は直ちに金錢に替わらるゝものを要す余は此頃某兩班の子弟に隣國語の教授をなしつゝあるが彼等は實に意外の希望を懐くに驚かされたり

余は其問答を掲げむ、

「アナタは日語を勉强されてドーなさるれ積ですか單に普通の日語を自由に流暢に繰つらるれば良いのですか、

「私は先生を特に聘して私共倅二人の教育を御委かせしたのは故あるのです韓人は法律だとか政治だとか經濟だとかの學問を大層好みますが是れは先天的特に兩班といふ一種のものが好みますので役人になりさわすれば樂なもの議論されてれればソレで其日を暮されるといふ極く簡單な考ですソレで富國强兵の基礎が成立つでせうか韓國が今日の狀態に陷つて朽木不可彫で新鮮最良の種子を蒔かなければならぬのですツマリ生れ替つた考で韓人は務めねばなりません然るに此重任を負はなければならぬ第二の國民を教育する普通學校令には補習科を置き簡易なる實業教育を施す事となりをるも未だ實地に行はれあるを聞きません校洞普通校に補習科あるも是れは高等學校の豫備科のやうに考ねます本年始めて第一回の普通學校にて卒業生を出したやうですが孰れの學校にても實業補習科を置いたのを聞きません何故でせうか法令にもあり統監府の方針も實業奬勵にあるやうに考ねますが、

由來因襲の久しき韓人は勞働を賤みますが抑々間違つて居りますから私共二人の子供は一人は工業に一人は農業に從事さしたい希望で其學科を修むには是非とも渡日さして專門學校に入らしめ歸來其方面に力を盡さしたく且つ兩班の一人として率先此等の職業に從事さして範を衆に示したいのです云々

余は彼等の上流の兩班にして此の思想を懐くに感じ余は彼二青年の爲めに善良なる指導を爲さんと期す

余は學部當局者に向つて切に實業教育の道を講じ一日も速かならん事を望むものである此等の方針に教育を向はしめば今日の如く學校は排日熱を敎ゆるどいふが如き非難は少なきを信ずるのである何故なればパンを得易きを以てなり韓人指導最良の捷徑なるを忘るべからず、

記者足下

余をして倘一言する所あらしめよ記者足下の持論なる學部廢止に贊成する者の余は一人である韓國の現狀に照して獨立の一部となし置くだけの國庫に餘裕あるか又ソレ丈の仕事あるか今日私立學校は悉く學部の命令の下に教鞭を執りつゝあるか各學校は統一されたるか工業傳習所及農林學校は學部の管轄なるか醫學校は如何に將た商業學校は好意的一私人の設立にあらざるなきか此等の實業學校は學部に於て設置するの必要なきか遠き將來はイザ知らず近き將來に於ては過渡時代の韓國にては内部の一局に教育を司らしめ統一を計り監督を爲さしめ一方針の下に各學校長をして働かしむるならば國家經濟より見るも其實蹟を擧ぐべき點より見るも其效果は現時よりも大なるべきを信ず是れ貴説に贊成する所以である蕪詞放言餘白を賜はらば幸甚

浮世ぐさ

●石炭採堀の始

石炭を燃料に供せしは古來有りしことなれども、今日の如く盛大に採堀するは亦明治の新事業なり、明治五年六月(日要三十號)に、三潴縣石炭礦二ヶ所の記事あり、一は三池郡稻荷山の炭礦にて日々坑夫四百人排水人夫百六十人、給料石炭百斤に付錢七十文なり、一は同山の續き生山なり[illegible]記事あり、又同年十月の同四十八號に長崎在留英國人ガラバといふ者近來高島の採堀を始めることを記せり

蓮葭雜錄に「石炭は中國九州よりも多く出せり、俗に五平太といふ、鹽竈の薪に代へて之を用ふ、尤此堀出すものは其土地の農民などに非ず、五平太堀りとて別にありて諸國を廻りて石炭ある山を鑑定して價格を極め買切て堀り取る事の由聞ゆ、尤此石やく時臭氣ありて家事の日用にては用ひがたしとあり、ふる〳〵より燃料に供せられしと見へたり

●煉瓦燒成の始

煉瓦製造の始は嘉永年間江川太郎左衛門によりて行はる、太郎左衛門其采下伊豆國中村に大砲鑄造所を設けしが蘭書に鐵を溶解するに、白燒の耐火煉瓦石にて竈及烟突を築造せざるべからずとあるを知り、天城山の南麓梨本の土を用ひて之を製し、同村鳴瀧に高五十八尺の反射炉(今の烟突)四個を立て大に大砲を鑄造したり、之れ耐火煉瓦の始なり、其後明治九年の交、瓦斯局の技師佛人ペレゲレン、上州高崎在乘付地方にて耐火煉瓦原料粘土を發見したれば假工場を建て製造に着手し後工部省は深川セメント工場内に白煉瓦の模範工場を起せり、後年西村勝三之を拂受けて品川に移し品川白煉瓦製造所と名づけて營業せり

明治十九年二月我政府にては新に臨時建築局を置き、井上伯總裁に獨逸建築家ビョックマン顧問に任せられ大に官衙議事堂の建築を壯大にせんとせり、ビ氏は從來の煉瓦の粗惡にして到底永久の建築に堪へざるを發見し、煉瓦製造の必要を開陳したれば井上伯は之を容れ保護を與ふる條件にて勤務したれば、池田榮亮、澁澤榮一、益田孝の諸氏合同起業するに至れり、先是建築局は在伯林の品川公使を介して製煉技師チーゼ氏を雇聘しビ氏と共に工場位置の選定に取掛り、埼玉縣大里郡上敷免村を以て原料豐富の良地となしたり

小説

新不如歸(六十五)

篠原嶺葉著

尾花敏男が突然滿洲へ出張を命せられたは何がためであらうか、其の參謀總長が別室に於て秘密に命令したより推考しても、決して通常一般の用向で無い事は明かである、茲に彼男は旅順に於ける軍事的一大秘密を探るべき重任を命せられたのである、されば旅順に到着した時は、既に服裝の如きも支那服を纏ふて、誰目にも容易に日本人と云ふことの見別られぬまで姿を變じて居た



某日のこと尾花は其の宿泊して居る秘密の旅館を飄然と出で露西亞街を通りかゝると行方から來る一人の日本人がある、此日は遼東の冬和日として珍らしい好天氣で、案子山、白玉山、又海を隔てた鷄冠山等の諸山は數日前より降り續いた雪に皚々として登れ見渡す限り一面の白妙をなしてそれに太陽が眩きまで照り渡つて居るゆゑ實に其の絶景は好個の活畫を成して居る、されば、昨日までも防寒具に身を包んで、殆んど目ばかり露はした往來の人々も、今日は雪の呉竹が刎ね起きた如く、活々とした樣子で中には防寒具さへ纏はぬ人もある、今行方から來る日本人も猶且其一人であらう茶色の背廣服に同じ色の外套を着て、頭には鼠色の縁廣帽子を被つて居るばかり、別に防寒の服も纏はず顏も定かに見ゆるのである、尾花は珍らしくも日本人と行會つたので、二三十歩の此方から其顔を眺めつゝ進むで、早や五六歩の間に近いた時、何と無く見覺のあるやうに思はるゝので、頻に其誰なるかを考ふるのであるが、咄嗟の場合容易に思ひ出せぬのであつた、其間に早くも既に互に行違つたが其人が五六歩も行過ぎた頃、漸く思ひ出したので、猶豫もなく振返つて、

「西脇さん、西脇さん。」

と、續けさまに聲を懸けた。

すると、件の日本人は驚いた如く回顧つて親しげに我名を呼ぶは誰であらうかと見れば一人の支那人であつたゆゑ、不審相な顔色をして、

「僕を呼んだのは君ですか。」

と、問ひ質した。

「はい、私です。」

云ひつゝ傍に近寄つたに、西脇はまだ其人が解らぬ樣子で、

「君は誰方でしたかね、僕は御目に懸つたやうな心地もするですが、どうも判然記臆が無いです。」

すると、尾花は微笑爲ながら、

「解りませんか、はゝゝゝ私は。」

と云ひかけて急に四邊をグルリと眸はして

「尾花敏男です、はゝゝゝ。」

「わゝッ」

と驚いて、寸時其顔を瞻めた後、

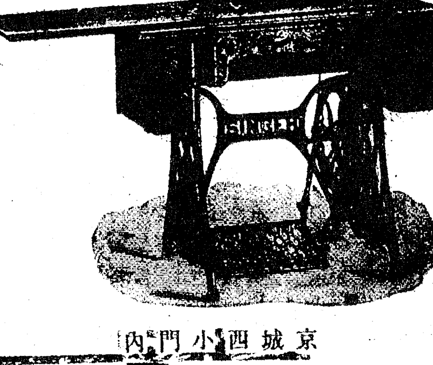
「道理で、奈何も見覺のある顔だと思つた何時旅順へ御出でになりました。」

「いや、色々と話爲たい事もありますが、左に右這樣途中で話す理には行きません、夫れ急ぎかは知らないですが、もう彼是十一時になるでせうから、少し早いが何處かで午餐を食りながら話する事に爲ませう、」

「決して差支はありません、では私が時々行く料理亭がありますから、其處へ行く事に爲ませう。」

「では、御案内を願ひませう。」

かくて二人は打連立つて、午餐を食べに何れへか立去つた。



曾禰副統監の進退

東電の報ずる所に依れば桂首相は曾禰副統監を以て大藏大臣たらしむるの意あり、伊藤公も同意を表したるを以て結局就任を見るべし、曾禰副統監にして應ぜざれば清浦子爵入閣すべしと、果して之れ桂首相の眞意なりや、余輩は未だ俄に之を信ずる能はざるなり、桂[illegible]の當時に於て大藏大臣の入[illegible]せられたるは明なり、從て曾禰子を以て[illegible]と思惟したるも事實ならん、然れども曾禰子歸朝中に桂侯との默契は破れたるものゝ如し、并は副統監として韓國經營に全力を注ぐ可く定まりしならん、故に曾禰子が東洋協會に歡迎せられ其席上に於て述べられたる所は其確固たる決心の躍々たるものあり、一度斷ずれば容易に動かざる曾禰子の宣言として世は舉て之に重きを置けり、桂侯亦能く曾禰子を知るものなり、之を以て內閣組織當時に於て曾禰子を招[illegible]、曾禰子が韓國經營の[illegible]なり、之れ曾禰子の希望にして桂侯の默諾する所ならん乎、以上は少しく穿ち過ぎたる觀察なるべしと雖も、事實は必ず斯の如くなるべきを信ずるなり、惟ふに東電の報ずる所も所謂政客等の取沙汰に過ぎざるべし、若し夫れ余輩の觀察にして誤り、大藏大臣に就任せらるとの事實なりとせば余輩は曾禰子の爲に愛惜せざるを得ざるなり、

若し曾禰子にして大藏大臣として入閣するならば、桂內閣は[illegible]に重量を加ふべし、紛糾錯雜せる財政も曾禰子の辣腕に依りて整理せらるべし、行くとして可ならざるなき妙智は閣僚間の融和をも助くべし、曾禰子自身としても[illegible]の志なきには非ざるべしと雖も、大藏大臣たると副統監たると何れが桂內閣の爲に便宜なるやは亦一の問題なり、對外政策の刷新を標榜して立てる桂內閣には曾禰子が副統監たるは却て便宜なるにあらざる乎、殊に余輩の觀察せる如く桂侯との間既に默契ありとすれば入閣せらるゝ筈なし、

然らば曾禰子を以て眞個に副統監として適任なりやと云はゞ并は本題問題也、其適不適は[illegible]大藏大臣たるよりも副[illegible]として韓國經營に全力を注がるゝを望[illegible]有体に云へば適任らしく思へばなり[illegible]就任以來漸次韓國經營に興味を感ぜられ專心之に從はんとの誠意あるを信ずればなり、其獨得の雄斷は韓國統治に最も須要なり、韓政客の政爭渦中に引入れらるゝことなく超然として產業政策に勤むる如き、總ての着眼施設は伊藤公に優るの感あればなり、亦曾禰子の人格よりするも蝸牛角上の爭ひよりは殖民地經營の方面に適するに非ざる乎、余輩は玆に所感を記して曾禰子の前途をトせんとす、

▲駐韓十三師團交代

駐韓軍第十三師團は昨今暴徒下火に付き十一月上旬內地に引き上げ第六師團と交代すべく一兩日中に關係師團に令達さる

▲勲章賜呈

韓國皇太子殿下には本日伊藤統監と同道東宮妃殿下に御對面の上婦人最高勳章を賜呈せられたり（以上廿八日發）

●大臣會議

昨日統監官邸に於て各大臣參集し午前十時より定例大臣會議を開きたり

●參與官會議

昨日午前八時より官邸に於て各參與官出席し定例參與官會議を開きたり

●間島問題回答

間島問題に關する清國政府の回答は二十日外務省に到達せり頗る活潑なるものなり該回答に於て日本は吉林より韓國清津港に達する鐵道敷設權を得て讓歩すべしとの報道は無根なりと云ふ、從て此程延吉廳にて防穀令を敷きたるが右は同廳管下に於ける間島は韓國に重要なる穀物供給地なるに該地人民の迷惑少なからざるを以て統監府間島派出所長齋藤大佐より抗議を申込み又韓國暴徒にして時に間島に入込む者あるも[illegible]を爲すに至らず

●整理局の分課規程

財政整理局の官制は昨日の官報を以て公布せられたるが同局の分課規程は近々度支部令を以て制定せらるゝ筈にして其の內容は測量、債務、庶務の三課とし測量課は土地測量に關する事項を掌り債務課は[illegible]に關する事項を掌り庶務課は[illegible]に關する事項及び異議申請の審理を掌り課長には書記官を以て此れに充つる筈なりと云ふ

●警務局の通牒

八月一日より發行する第一銀行券に關し民間種々の流言を放ちて同券の流通を阻礙せんとするものあるより度支部大臣は地方官に對し一般人民をして誤解なからしむる樣訓令を發したる事は既報の如くなるが內部警務局長も各警察署長及び警視總監に對し右銀行券の流通を圓滿ならしむる樣努むべき旨度支部よりの依賴により昨日通牒を發したりと云ふ

●森林取締訓令

漢城五署の森林は古來の禁林にして水源の涵養は勿論衛生風致に關し保安の必要あるを以て今回森林法第五條に依り保安林に編入されたることは既報の如くなるが自今其保護監守に就き嚴重の取締を爲すべき旨警視總監より各警察署に訓令したり

●民團議員の活動

京城居留民團議員は民長官選問題に關し一昨廿七日午後七時半より南大門通りなる和田議長宅に會合し出席者十三名あり（七名は內地旅行又は病氣にて缺席）和田議長を座長に推し本問題に關し審議の結果左の決議をなせり

一今回統監府令第二十三號を以て發布せられたる「民長は統監此れを任免す」との條項は民團自治の本能に背馳するものと認むるを以て飽迄此れが廢止を期する事

一前項の目的を達するため民會議員一同は協同一致の運動をなし去就進退を共にする事

一統監に對し府令の撤廢を請願する事

一目的を貫徹するの見込無きときは議員（一同）連袂辭職をなす事

尙統監に提出すべき請願書起草のため和田、中村、中島、山口、古城、曾我の六氏を委員に擧げて散會したるが右の請願書脫稿の上は地方各地の民團に交涉し一致の行動を取る筈なりと云ふ

民長官選問題大演說會

今回統監府令を以て發布せられたる居留民團長官選問題は居留民團自治の精神に背くのみならず亦之を危殆に陷るゝものたること既に一般居留民の認むる所なり我民團議員諸氏も此に見る所あり一昨日和田議長邸に會合し絕對的反對の決議をなしたることは別項記載の如し之れ御用新聞一派を除くの外居留民全般の輿論なり此に於て京仁五新聞發起となり來る三十日午後六時より歌舞伎座に於て京仁各新聞社合同大演說を開き官選問題に對し大に輿論を喚起すると共に亦此問題を講究することゝなれり

●警備電話の設置

地方暴徒掃蕩の便を圖り警備及軍事通信の用に供せんが爲め當韓國全般に涉りて目下盛に工事中なる警備電話線は爾來各工區共工事の摸樣着々進捗し本月一日鳥致院淸州間電話線の開通せるを始めとし其他已に竣工開通せるもの左記の通り新幕新溪間外五ケ所尙本月中に通話開始の見込あるもの貳ケ所ありと云ふ目下時季漸く炎暑鑠金の候に入り加ふるに雨季出水汎濫等の爲め各工區共工事非常に困苦辛勞を極むるものありと雖も本工事は極めて急施を要するが故に毫も之れが爲めに工事の工程を緩ふすることを得ず是を以て八月中には全工事の大半以上を了へ僅かに江界厚昌及北靑甲山間其他江界沿岸等の一部を殘すの外殆んど竣成するに至るべしと因に該警備電話線に接續の上相互通信し得べき官憲は各地警察官署を始めとし守備隊及憲兵隊並郵便局所等にして尙土地の狀況及諸般の關係上一般公衆通信開始の必要ある個所は追て該線を利用し開始の見込にして既記鳥致院淸州間の如きは本月十一日より警備電話線に依りて電報を送受することゝし淸州郵便局に公衆電報事務を開始せりと云ふ

（區間）		（開通月日）	（里程）里、町
鳥致院	淸州	七月一日	五、〇
新幕	新溪	七月九日	八、八
元山	陽德	七月十三日	一八、〇
利川	驪州	七月十四日	一七、二四
義城	靑松	七月十五日	一〇、〇
太田	錦山	七月廿二日	一六、〇
安東	榮川	七月廿六日	一六、〇
海州	瓮津	本月中開通の豫定	九、〇
元山	長箭	同	二六、〇
計			一〇五、三二

●沿岸滊船會社創立

目下仁川有志者間に計畫中なる沿岸滊船會社は其後創立に關する具體的の調査中なりしが大分進捗したるより近々創立總會を開く運びに至るべしとなり

●請願用紙の賣下禁止

韓國各官廳は古來の習慣にて其の官廳に使役せらるゝ使丁廳直が其の官廳への諸請願用紙を作り人民の請願書を提出する者に一枚に付五錢乃至二十錢にて賣下げ其の代金は彼等の收入となり或官廳の如きは其の金額多額に上り地方人民の請願書を提出せんとする者は用紙を手に入るゝため頗る不便を感じ其の弊害極めて大なるのみならず使丁廳直等が俸給以外に如斯收入を得る理由なきを以て新官制の實施と共に一切禁止する事となせしに拘らず彼等は依然として此を改めず右の請願紙に認めざる願書は此れ受け付けに取次がず農商工部のみにても本年一月以來彼等が此れによりて得たる金額三百餘圓に達したる程にて徒々其の弊害甚しきを以て同部は今回彼等に嚴命して其の賣下を禁止し此の禁止を有功ならしむるため彼等の月給を各二圓宛增給する事となしたりと云ふ

●歐亞連絡協約

西歐鐵道各停車場と哈爾賓、浦鹽斯德と並に上海、長崎、敦賀港との間に旅客及手荷物の直通連絡開始の件に關し露國政府は七月十四日より愈々實施することゝ爲りたる趣なるが此協約に加盟したるは英國大東鐵道▲英國南東チエトウム鐵道▲白耳義各官有鐵道▲北方佛蘭西鐵道▲巴里オルレアン鐵道・西方佛蘭西鐵道・巴里里昂地中海鐵道▲和蘭官有鐵道▲普魯西官有鐵道▲墺地利官有鐵道▲露國義勇艦隊▲ゼーランド滊船會社▲後貝加爾鐵道▲西伯利鐵道▲サマラズラトウスト鐵道▲ライズラニウキヤトウカルミ鐵道▲莫斯科クルスク鐵道▲莫斯科プレスト鐵道▲莫斯科ニコラエフスカヤ鐵道▲プリウキスクヤンスカヤ鐵道▲北方鐵道北西鐵道▲ワルシヤワ維也納鐵道▲東淸鐵道等にして右連絡線に由る場合手荷物輸送に關する規則は露國鐵道の同規則と多少の相違あり即ち露國各加盟線並に東淸線に於て手荷物紛失の場合各一キログラムに付一等乘客には七留三十哥二等乘客には四留八十八哥三等乘客には二留四十四哥等の賠償金を支拂ふものとす

●漢江沿岸運輸狀況

△麻浦行は重もに帆船を以て航行し其船數約七八十隻あり重もなる船主は田中廻漕店、江口組、榮組、永石組等なり

△一噸に對する貨物運賃は平均一圓內外にして實際此船運に要する費用一噸につき平均七十錢內外にして差引一噸につき船主の利益は平均三十錢位なりとす

△當港より麻浦に運輸せらるゝ貨物は主として石炭建築材料、レール、セメント等にして就中石炭は第一を占め一ケ月平均二千八百噸內外あり碧瀾渡行は重もに田中廻漕店所有の帆船なりとす

△一ケ月の貨物噸數平均九百噸內外にして其運賃は平均一噸につき八十錢內外にして此航運に要する凡ての費用は一噸につき五十四錢を要し差引廿五六錢は船主の利益なりといふ

●賊徒討伐情況

△求禮守備隊の特務曹長以下十四名は七月十五日求禮東南約四里にて賊二を殪し火繩銃一を鹵獲す

△北靑守備區砲兵特務曹長以下五名步兵十名は七月十四日より二十一日に亘り甲山南方二里社東方の地を檢擧し賊二を殪し銃器十四を獲第三巡査隊は六月廿五日より七月廿四日迄甲山三水兩郡にて歸順者七十を出し銃六十を押收す

△咸興守備區騎兵中尉の率ゆる討伐隊は七月二十日洪原北方約七里に於て約五十の賊を討ち其五を殪し尙之を追擊しつゝ北進し翌二十一日北靑郡內にて約三百の賊と交戰し之を擊退せり賊の死二十負傷若干我損害乘馬二即死負傷三なり

△成歡守備隊中尉以下討伐隊は七月十七日牙山西北約四里に在る行淡島附近海上にて賊船に出會賊二名を捕へ銃五を鹵獲す賊は陸上に逃走す

●淸國無賴漢の取締

昨年以來平安北道雲山其の他の礦山に淸國人礦夫を使役せしに漸次其の數を增加すると共に多數の無賴漢入り込みて盛んに淸國賭博「チーハー」を行ひて無智の韓人より多大の金員を捲ひ或は市場に到りて韓人を脅迫する等諸種の弊害を生じ本年春以來殊に甚しきに至り地方の安寧を害し風俗を亂す事大なるを以て內部警務局は統監府に照會し淸國領事と打合の上右の浮浪淸人の取締に着手し今回松井警部を同地方に出張せしめ地方警察官と共に嚴重なる調査をなし重なる惡漢二十餘名を逮捕して此れを鎭南浦なる淸國領事に引渡したれば同地方の韓民は大いに安堵するに至りたりと云ふ

●世津谷會長の講演

本日午後八時より旭町三丁目日本メソヂスト敎會に於て滿州基督敎靑年會々長世津谷銳二郞氏の講演ある由演題は「基督信徒の生涯」なるが幸ひに夜分のことなれば精神修養上傍聽に赴かれたし

●關東學會總會

廿六日午後二分本部にて開會出席者會長南宮濬を始め三十二名にして本會規則にて評議員三十名と規定しありたるも二十五名のみ選定し殘り五名は欠員なりしにより一般會員の投票により五名を選定せり又原州郡より支會設立の請願ありたるに對し許可することに可決尙來日曜總會の際は一般會員より敎育の進興と財政の方針の件に付其意見書を調製提出する事を議し四時三十分散會せり

●同志親睦會總會

廿六日午後二時磚洞普成學校內に開會出席者五十名にして前回會錄及會計報告あり兪吉濬、張博、李商在、安昌浩、李東暉、朴重華、閔泳徽、柳東鎭、玄采、金宗漢の十九名中より安昌浩を顧問に選定せり又評議員十名新任し贊助員五千名を募集することを評議員に委任することに決定し四時三十分閉會せり

●公州通信

六月上旬の調査に依れば公州の住民は日本人戶數八一、人口三〇四內男一五四、女一五〇、韓人戶數一二九二人口五五三四、內男二八六〇人女二六七四人佛人一戶米人三戶支那人二一戶六七人內男六四女三人、以上は六月上旬の調査に係れるが爾後日本人約百名增加せしが如し而して重なる生產は米、麥、大豆、煙草、木材等主產にして其最多からず辛ふじて供給しありて將來は他より其供給を仰くに至らんと又日本人の營業は日本旅館三雜貨店七料理店二飮食店四韓人雜貨米穀商支那人雜貨店等にして日常の需要には不足を感せずと雖も概して粗製にして價格不廉近々騰貴の兆あり又官衙としては忠淸南道觀察府、地方裁判所、區裁判所、警察署、監獄、郵便局、郡衙、財務署、治道局、土地調査局、學校、銀行、病院等ありて司法行政敎育衛生の諸機關は一通り具備せり

●慶州狀況

慶尙北道慶州邑は城壁を以て圍繞し四方に門ありて南門外皇南洞を加へ十三洞別で戶數一千五百五十五人口五千〇五十三にして其半數は商業にして餘は農業なり居留日本人家は二十七戶にして日本人會長前田將以下七十一名內女二十五人あり皆商業其他夫々の業務に從事せり又市內面に市場二ありて大市場は南門外にして大市場は二七の兩日小市場は四九の兩日にして行商多く相集り其物資の重なる種類は米、野菜類、鹽、魚、牛肉鷄卵、薪炭、木綿、麻布類等にして當日は人出尤も多く物價は稍々高價なりと官衙としては郡衙警察分署財務署郵便局公立學校等あり

●水源端霧笛吹鳴再開

昨年十二月より停止中なりし東岸水源端燈臺の霧笛吹鳴は本月十六日より從前の通り吹鳴を開始せり

●鴨綠江の浮標設置

韓國西岸鴨綠江口より安東縣に至る航路へ浮標及び陸標を設置せられたり

公人私人

▲小倉武之助（肥料合資會社員）は一昨日大邱へ歸れり
▲木原方吉（佐賀縣水產組合技師）一昨日下仁
▲長瀨七郞（佐賀縣派遣員）同上
▲申培植（漢城銀行神戶支店員）一昨日來京巴城館
▲諸谷正太郞（製鋼會社員）同上
▲西村仲太郞（稻葉組員）同上

●近事片々

▲伊藤公の農業政策なるものを見るに總て是伊藤式にして隨分呑氣なるものゝ如し
▲有望と云ひ不有望と云ふも畢竟資本勢力の問題で解決如何に依て何れにもなる
▲資本と勢力とを下せば可なり良好の結果を得らるべしと之れ當然の事也余り陳腐
▲今日は韓國の有樣で之を恢復するの困難は一通でないと余り極り文句斗りでムる
▲河川は氾濫を定めず流域は屢々變じ水利の便は殆どないと之れ今更の事に非ず
▲山は骨を露はし滿山一木を止めざると云ふ悲むべき狀態にありと常套文句の極也
▲最後に土地と勞力とは韓國の民に出させ資本と不足せる勞力を日本人は補はすと
▲而も氣永に之を實行して國本を養ふ積りとは呑氣千萬國民は到底之を肯せざる也
▲何故か伊公は帝國民の多數移住するてとを常に恐るものゝ如し其意を解せざる也
▲多數の邦人移住すれば韓人に惡感を抱かしむるとは公が胸中に蟠まる誤謬觀なり
▲拓殖會社に對しても農業を先にし多數の邦人來ることは韓人の誤解を招くと云ふ
▲何れの國にても如何にして多數の殖民をなさしむるか問題也然るに之に反すとは
▲對韓政策の要は一人たりとも多く邦人を移住せしむるにあり伊公の政策は反對也
▲國民的の勢力樹立せば自然に對韓策は決せらるべし之ぞ積極的對韓政策ならずや
▲一進會亦々評議を始めたり地方會員續々入京して何事をか密議に餘念なしと聞く
▲一度活動して甘味を占めたることを忘られざる爲か何時も柳樹の下土鰌は居らじ
▲例の茶話會權顯璟氏の別墅に開かれ一大臣及び所謂元老連集合し茶話に花を咲せり
▲完用君は慶節陽曆說を持出し宋君は外債問題を提供し重應君喪忌祭等の泣哭廢止
▲各思ふ處を披瀝したるが重應君の喪及忌祭の泣哭廢止は甚だ振て居るとアイゴー
▲露領ニコライスク邦人死刑問題は滋だ公報に接せざるも頗る怪むべき事件ぞかし
▲露國の官憲には往々常識を逸したることをなすの例乏しからず或は事實ならん乎
▲護送兵士と衝突したる廉にて軍法會議に依り六名死刑の宣告を受くとは怪訝の極
▲浦潮在留の韓人日本商店を襲ひ暴行を逞ふせりと暴徒は浦潮に迄蔓延するに至る
▲此等の韓人中には暴徒の加はり居るや明也咸鏡暴徒の猛武者ならん困つた奴共也
▲鴨綠江上流に於ける暴徒は馬賊と結托して暴行を逞うすとの報あり危險千萬なり

特別廣告

吾人は今回の民長官選發令に對し社會の正義輿論に訴ふる爲め明三十日午後六時より京城歌舞伎座に於て同志政談大演說會を開催す（傍聽無料）

大韓日報社　朝鮮日日新聞社　朝鮮新報社　朝鮮タイムス社　京城新聞社

雜報

●笹の一葉（七）　みどり生

父は私を呼びまして「お前の話しは今方お母さんから委細聞いたが實はお父さんもソウは思つて居つたので甚麼しても此れからの若い者はタトヘ女にしろ相當な教育を受けずばならずイヤ平常はソレで宜いとした所で一朝所夫に分れるとか又は不時の災難で親から讓り受けた財産を失ふやうな事があつた日には何等かの救けがないとソレこそミジめな境遇に陷らねばならず、のみならず斯う世の中が忙はしくなり生存競爭の激しくなつて來ては男は言ふに及ばず女とても獨立の經營といふことが必要であればお前もヤハリ其の通り今から三四年間は學問に身を入れ來年高等小學校を卒業した曉は直ぐにも東京へ上り相當な學校に入りして勉强するがよからう此れ丈は母が何どいはうが此の父が請け合つて保證する程に安心して學に精を出し身に實を附けろ、又婿養子の件は實は那れも妙な話しから急いで取り極めるやうな譯になつたので……」と父は言葉を淀まして何んだか斯う言ひにくさうな樣子でムいましたが又直ぐと言葉を續けまして「イヤナニ今年の中に約束丈けをして置くのだから別に心配はない、ソシて又母も不承／＼ではあつたが承知したから安心して何んでも勉强するが宜い」と妙に意味ありげの言葉なのです、私は父の此の言葉がシミ／＼と心から嬉しく感じまして何んだか斯う一時に百萬の味方を得たやうな氣になつたのです ソレカラ日は一日と進み月は一月と重なつて參りまして丁度私が十六の霜月となりますといよ／＼其の角樽とか申すことが行はれまして、ソレから約束の盃が取り替はされました、尤も其の時母などは結納をすれば結納の取り交はしが順序であるから縦し此の先き二年なり三年の後に表向きに儀式を擧げらるゝ事にした所で其のやうな約束の盃などゝ曖昧なことは廢しにして、チャンと世間有り來りの結婚の順序を踏んだ方が至當であるなどゝ申されましたが併し結納の品物を互に取り交はした所で今の場合何の役にも立たずソレよりは却つて本人同志が堅めの盃を酌み交はした方が相方の爲めに宜からうといふ說が多かつたものですから母もトウ／＼其の方に說き伏せられて仕舞つたのです其の時の私の羞さと申しましたら實際お話しにはなりません、何れ皆さんも、もうソロ／＼其の羞かしい目に逢ふのでせうが……オヤ又皆さんが下を向いて仕舞ひましたネ、ソレではソコの所は拔きにしまして私が十七の春高等小學校を卒業して東京の女學校に參ることゝなりました咄しに移りませう、又私が罪惡の淵に足を踏み入れましたのも東京へ參つてからですから話は此からが面白いのです（つゞく）

●太皇帝の慈仁

太皇帝には近來氣候不順の爲め内外の病者頗る多き由を聞召され一昨日德壽宮に奉侍する官吏以下雜役に至る迄罹病の者は遠慮なく典醫の診療を受くべき旨承寧府に御沙汰あらせられたるにより同府にては之を同府一般に傳達し同時に同宮附皇宮警察係へも侍從を經て同樣の趣旨を傳へたりと云ふ

●鹿の逃走

西小門内に興行中なる六車動物園に在る牡鹿一頭は如何に動物の我等とて萬人の觀覽に供して恥を與ふるとは餘り我等を馬鹿にしてる人間共だと大に憤慨したか如何だか知らぬが一昨日午前九時頃柵を破りて英國領事館構内に向ひ逃走したれば飼主は大に驚き夫を逃しては我等の口が乾上る夫れ追掛けろと三名の者は之を追跡し同領事館の許可を得て構内に入り捕へんとせしも鹿も左るもの人間等の手に捉へらるべきものかと四足に任せて驅け廻り容易に捕へられざるにぞ同領事館より此旨布德門派出所に通報したれば詰合の巡査は直ちに同領事館に至りたるに此時鹿は領事館を出で修學院構内に逃れ附近の韓人の家に逃げ込みし所を捕へたり此時鹿は漸く自由の身となり青天を眺めたるも牝鹿の角の束の間なりしと嘆じたるなるべし

●佛樣の出戻り

去る二十六日の夜南山東本願寺に安座まします木造の佛樣は盜賊の爲めに誘拐されて其行衛不明なりし所より同寺に於ては在り家搜索中なりし所一昨日南山町大舘龜吉方に一個の木佛を持參し賣却せんとする男あり見れば本願寺にて行衛不明とならせられたる佛樣に似たりとのことを本町巡査派出所に通知ありしより詰合の巡査は直ちに出張取調べたるに果して右の佛樣に違ひなかりしかば本願寺の役僧と共に右の男を本署に同道し取調べたるに右の男は壽町三丁目十三番戸藤田竹次郎と云ふものにて犯人は未だ不明なり佛樣は本願寺に引渡され元の通り佛壇に安座ましまし今に五光を放ち居らるゝと云ふ

●沐猴にして冠す

根を洗へば是れ鼻ッ垂らしの小僧上り今の地位は七度人間に生れ替つたとて又と得難き出世の運喉元過ぐれば暑さを忘るゝ小人の淺ましさ加減も大概程のあつたものをヤハリ成り上りの身分の悲しさには以前の麥飯喰ひの時代を打ち忘れ呪ひの聲の直ぐ耳元に響き居るとも知らず益々增長し行く淺墓なる心根こそ寧ろ憫憐の極みぞかし、今は其の名前丈けは初犯の事故大目に見てやらんも愛南大門外の御成町か古市町かは知らねどるニキビ盛りの組員あり此の若者今を去る滿一年以前丁度去年の今頃は同組の給仕として茶汲み掃除に使走り上長の氣に入らんとしてまめ／＼しく勤め居りしが元來此の者猿智慧の人並より回はりし上に門前の小僧習はぬ經を讀むの譬へ通り身の境遇のいつとはなしに讀み書き算盤等も一人前にやつて除ける所から組の主任の覺え目出度那れならばマツ將來一人前の人間として社會に出しても恥かしからぬ若者と目星を附けられ、一にも二にも用事のときは右の若者に命ずるといふ氣に入り方に若者も大將／＼と許りに冊づき他の上長の組員の命令は二度に一度は拔きにしても主任とあらば所用の有無に關せず此方から氣を利かして御機嫌を取るといふ工合サテ頓て主任殿に於ては機を見計らひ若者を引き立て○組員の一人とはなしたりしに若者の喜びは一方ならず急いで古着屋に至り早速間に合はせの洋服を購ひ來り此んな垢じみた衣物や帽子などはもはや要るものかと行李の中に押し込み今日よりは洋服姿のコスメチックといふハイカラの扮裝毎朝ステッキを振り廻はして○田組へ通勤する身とはなりたりしが沐猴にして冠する給仕上りの彼れは此の急激の出世に天下でも取つたやうな氣になり他の組合員の後指差して冷嘲するをも知らず益々增長に增長して近頃は元と自分の上長たりし組員にも鷹揚の言を弄し無禮の振舞を爲すのみか薄給の身を以て不心得千萬にも遊里の巷に足を入れ大分新町の井門樓の紫とかいふ娼妓に逆上せ居るとのことなるが若し現狀の儘にして此先きとても改悛の模樣なくば主任に代りて斷然首を刎ねてやるべしとの長たらしき投書のまゝを

●橋より落ちて溺る

建德坊於義宮洞一統五戸曹錫崇（十六）なる者は去る廿四日東大門の南なる五間水橋の上より誤つて水中に陷り上らん／＼と藻掻き居るを東大門巡査派出所巡査が聞き直ちに駈け付け韓人三名を呼び集め協力して水中より引揚げたるも折りからの增水にて溺れ居りしことゝて只だ僅かの呼吸あるのみなりしより應急の手當を加ふる爲め直ちに大韓醫院に送り診察を受けしめたるも既に絶息し居りしにより死体は實兄に引渡されたりと云ふ

●車乘りの當外れ

住所不定の大阪府泉南郡尾崎村百一番地平民菓子職濱野房太郎（二十）は一昨日午後十一時三十分頃南大門停車場前人力車營業李先達挽子朴書房の車に乘り意氣揚々として本町に乘り込みしまでは好かりしも肝腎の車賃なきより本町一丁目別府爲五郎方に至り車賃を借り受け仕拂はんとせしも生憎く不在なりし爲め今度は本町十丁目に住する飴原料製造業遠藤源太郎が爲五郎の妻の兄に當るを以て同人を便りて車賃を借らんとしたるも目的外れたるより更に角明日には乾度仕拂ふから夫れまで待つて呉れと賴みたるも車夫はいつかな聞かず新町派出所に訴へ出たるより同所にては之を本署に同道し取調べたるに房太郎は住所不定の爲め一應留置し車賃四十錢を仕拂はしめ懇々說諭の上昨朝放還されたりと云ふ



●醜書を賣る醜奴

京城本町四丁目織居路一方寫眞原料販賣業高知縣高岡郡斗賀野村士族田村勝吉は本月十四日婦人の○○を露はしたる裸体畫二十七枚を一枚八錢の割にて海州在留の前田某に宛て小包郵便を以て送付し代金二圓十六錢を受取りたること發覺し風俗を害する圖畫販賣の被告として檢事の手に送られたり

●挽馬足を挫く

西部西小門外蛤洞住荷馬車挽孫雲集（三十）なる者は一昨日午後四時頃本町一丁目熊平商店より金庫を荷馬車に積載し運搬せんとする際挽馬は何に驚きしか本町一丁目に向つて驅け出し街路の石に躓きて左脚を挫き負傷するに至りたり

●お目出度き亭主

西署外蓮池坊二十三統居住申元明（四十）は性來少々白痴の男にて從つて萬事につけ餘所の見る眼も氣の毒の程の意久地なしなるが一昨日は如何なる所用の起りしものかまだ妻や子の寢て居る夜の引き明け頃ヌッと臥床を起き出で髮を掻き付け帽子を冠りフイと何れへか出で行きしまゝ晝過ぎになつても晩になりても待てば待つ程歸り來らず頓て夜もダン／＼と深更となりしがソレでも歸宅の模樣なきより如何はせしやと心配し居りし所昨朝五時頃に至りノコ／＼と歸り來りしを見れば全身生々しき碧血の附着し居るより驚いて其の由を詰ねしに申は一向平氣にて實はお前も知つての通り家は俺れの意久地なしから始終貧乏許りして居るから昨日から犬殺しを思ひ出してソコ等を尋ね廻つたが却々俺れに摑まるやうな犬は一匹も居らず已むなく死んだ犬でも摑まへて歸らんと昨夜ソコ等の野原をウロツキ廻りし所折よく丁度一匹の犬が道に橫はつて居つたを幸ひ引つ捉へんとして右手を頸に掛けたるに其犬といふは病犬にてワンといふや否や此の右の手に噛み附き斯くは血まぶれとなりし由を物語りたるに今度は其の飽迄も阿呆さ加減を女房から叱られ散々打擲されたりとは何所迄お目出度野郎なり

●糞桶を溝に投棄す

民團役所糞尿汲取人夫韓人鄭某善（三十）は昨日午前七時頃駱洞なる溝渠に糞尿桶を拋擲したる所を韓人巡査に發見せられ寸水ひど本署へ引致せられたり

●本町座の白川劇

同座本晩の替り狂言は家庭小說『やどり木』にして其配役は如左

國井多鶴子（今井）西山謙一（石巻）女學生木村（伊藤）家令塚原（葉山）車夫三太（七居）女學生鈴木（岡島）淺尾正氏（田宮）淺尾信輝（南郷）飛鳥井秀麿（中川）女房昌子（小泉）乳母れきみ（寺西）國井孝登（秋山）大學生（佐藤）大學生（喜多）淺尾照子（三浦）西山泰子（四位野）女學生吉田（島村）牛島省吾（白川）

（民）（文）（庫）

▲此頃の降雨で大分路が破損したゝめ民團に於ては早速修理に着手されたは甚だ感謝する所であるが只だ損所に土を盛つた位では雨が直ぐ洗ふて仕舞ふから今度雨期が了つたら大々的修理をして貰ひたい（建築技師）▲花月の辰子猖病氣も愈よ全快したけれど新聞に書かるゝから大和町官舍の出入は當分禁止となつたので心配だろう（同情生）▲吉村生よ君は僕を知らざれども僕は君を知るもの彼の毒婦櫻州が是迄なせし罪惡を縷けば三面記事に連載して猶餘りあり然れども死人に鞭打つも同樣只前途有望の青年が彼れが毒舌に罹らざる前に反省を促す耳（南山鳥）▲晝は金をも鎔す如き惡熱裡に劇務と奮闘し夜は余の最好なる畷そばの冷蕎麥に舌鼓を打ち一本のビャーに微醉を帶び樹林鬱蒼たる南山の涼風に精神の爽快を養ふ是れ余が最近の日課なり（孤獨生）▲商店男君よ彼の毒婦櫻州の行動に善惡の兩道を解し尤も彼れの辨護に力めたる投書態に君こそ畠下長連の類に外ならざるは生が天眼通に照して明かなる處なり、御熱心／＼（手紙）

▲本町六丁目一富士亭の花子さんお情あらば一言の返事に預りたい（捨小）▲八丁目の久田亭の國子さん此頃は雨の日和如何に渡らせ給ふか（一靑年）▲鐵道管理局活版部の内幕と其職工取締りの雇員○○の不正行爲とを素破拔いて遣りたいですが掲載て呉れ升か（憤慨生）▲擔造中傷にあらざる限り掲載も致し升が併し一應原稿を見た上でなくては何共お答は出來ぬ（係）

●天氣豫報（自廿八日午後六時至廿九日午後六時）

南又は西の風曇後晴

二十八日午前六時各地氣象概況　全國概ね靜穩にして曇天を告げ京城は雨仁川は濃霧を見たり

廣告

株式會社漢湖農工銀行　第三期（隆熙二年上半期）營業報告

貸借對照表

●負債之部

政府貸下金	三一九、二〇〇、〇〇〇
貨幣整理貸下金	八、〇〇〇、〇〇〇
農工債券發行高	一五〇、〇〇〇、〇〇〇
資本金	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇
積立金	八、五〇〇、〇〇〇
配當積立金	二、五〇〇、〇〇〇
支撥未完配當金	五五〇、〇八〇
定期預金	五一、七四四、〇〇〇
當座預金	三〇、三三六、〇〇〇
小額預金	一五二、八三七、六九〇
預金手形	三、五五三、二五〇
別段預金	九、七九五、六五〇
支店爲替手形	二、四八九、九五〇
他店より借（四十ヶ所）	一五、四三六、七八〇
中央金庫	一〇、三五二、五六六
貨幣整理資金	一六、七九二、八〇二
當期純益金	[illegible]
前期推移金	二、三〇七、五五五
合計	一、三〇七、一二四、九三五

●資産之部

辨納未完資本金	三三五、六五〇、〇〇〇
年賦償還貸付金	八、六一〇、〇〇〇
定期償還貸付金	三八、三七五、〇〇〇
貸付金	二八、一九八、五四〇
割引手形	二六、三一五、〇〇〇
當座預ケ金	一七六、七九一、五九〇
公債券	五五、〇二〇、〇〇〇
株券	二、五〇〇、〇〇〇
他店へ貸（卅九ヶ所）	一四、七九九、六三〇
地所	一七、三五一、三四〇
建物	二三、五五八、九六〇
什器	一六、七六〇、五七〇
收入印紙	[illegible]
手形用紙	[illegible]
典執物流込物件	[illegible]
内譯　地所	[illegible]
内譯　建物	[illegible]
保管貨幣	一六、七九二、八〇〇
金銀有高	[illegible]
正紙幣及兌換券	[illegible]
補助貨	[illegible]
切手及手形	[illegible]
貸	[illegible]
合計	一、三〇七、一二四、九三五

●損益勘定

一金六萬五千九百七十圓八十六錢五厘　當期總益金

一金二千三百〇七圓五十五錢五厘　前期繰越益金

合計六萬八千二百七十八圓四十二錢

內　金五萬二千六百十二圓三十三錢　當期總損金

差引　金一萬五千六百六十六圓〇九錢　當期純益金

此利益分配左の如し

金六千五百圓也　積立金

金一千圓也　配當積立金

金四千七百十二圓也　配當金

金一千三百三十圓也　賞與金

金二千一百二十三圓〇九錢　後期繰越金

右の如し

隆熙二年七月

株式會社漢湖農工銀行

理事銀行長　白完爕

理事　洪肯讚

同　李鴻烋

同　韓健會

同　鄭敬祥

同　孫雲禧

同　陰海植

同　李在周

同　徐顯文

同　朴基煥

同　尹東重

支配人　久能省三

前記各項の調査を遂げ其正確なる事を保證候也

監事　尹晶錫

同　白寅基

同　徐璟澤

同　金在勤

同　李淵夏

東京淺草觀世音 名物 紅梅燒

高等衛生 茶用煎餅

中元御進物用に適し腐敗の憂なし

京城南山町二丁目天眞樓前 梅林堂

老妓 茶羅次の身上話（三）

◎猿の悶惚

技目の無い菊五郎さんだから直ぐ覺つて仕舞つて夫れからといふものは、屁ッぴり虫〳〵ッて死ぬまで菊五郎にいはれました、ハヽヽヽ、眞正。と大きく笑つて坐を立つたが暫時して元の席に歸り、香三三點を火に投ぢながらイヤハヤ飛んだ災難、菊五郎さんに屁をひッかけた話をした祟に違ありません今れ楔場で女將に挨拶をして居ると猫に其仇を取られましたが如何も酷く臭ふものです。

恥をれ話しなけりア判然りませんが此れでも一度は女房さんで世帶を持つた事があるんですよ。今は大勝さんに讓をしちまいましたが其前までは淺草の花屋敷を手前切り廻して居たのです。其時分の事で因果な戀物語といふのをれ耳に入れましょうか御存じの通り生物を澤山扱つて居る稼業ですから人足も大勢使つて居た中に幸さんといふ年若な色の小白い鳥渡した男がのりましたが此男に松といつて猿が悶惚つちやつたのですよイヽエ眞正。柄の大きい外國の種で極く柔順なしい女猿でして畜生でも小奇麗なものは好くものと見ねましで幸さんが前を通ると如何にも嬉しそうな顔つきーーといふのも變ですが何しろ大層悦ぶ風が番人仲間の目に止まつたのです。鳥渡れ聞きになつたのちやア嘘の様にも聞ねますが夫れは多年の經驗で不思議に判然ます其處で番人仲間が面白半分幸さんにヲイ松が待つてるから顔を見せてやんねゑ、ヨー〳〵猿の色男樣てナ事をいつてはからかいましたが其度毎に幸さんは厭な顔をして成る丈松のそばに寄らない様にして居たのですが用事の都合で其前を通ると畜生ながらもチャンとして兩頰に喰ひ溜めて置く餌食を吐き出しては兩手を合せて頭を頻りと下げ〳〵したそうです。ツマリ自分が喰べたいのを我慢して好いた男に喰べさせ様としたのです、畜生の悲しさ口がきけないだけ猶更ミジメになるぢやアありませんか日數が經つに從ひ幸さんの聲を聞き覺ねちまいましてチ鳥渡でも其聲が聞ゆるとキョロ〳〵と四邊を見廻す様になつたので幸さんも薄氣味が惡くなり其後フッつり姿を隱しちまうと或夜の事如何して鎖を切つて來たものか幸さんの寢て居る枕元へ來て幸さんをゆり起し腰を叩いては兩手を合せ終夜勤かなかつたそうで明日になると幸さん色もそうも無く妾の所へやつて來て實は昨夜コレ〳〵でイッソ恐ろしくッて當抵御奉公をしては居られませんから濟まないがれ暇を頂きたいッてブル〳〵して居るぢやありませんか、妾も餘り馬鹿氣た話ですから、馬鹿なソンな事があるものかとケナシたんですのサ、けど幸さんは眞劍でトウ〳〵我家へ歸りましたがチ夫れと同時に松の妻も見ねなくなつちまいましたのが不思議でしたチ。

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金四十五錢 ▲三ヶ月金[illegible]

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別[illegible]

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城新聞社 電話六六三